

The
Kyushu
University
MuseumNo.23
News

九州大学総合研究博物館ニュース

第一分館閉館、移転本格化のお知らせ

工学部等の移転から9年、理学部等の移転が今年の10月に行われます。その3年後には、農学部等が移転することに決定いたしました。それに並行して箱崎キャンパスの整理が始まり、旧工学部2号館の解体に続き、博物館の第一分館の解体も次年度に決まり、旧工学部本館等への引っ越しをします。今後は、新しい博物館を見据えての活動を本格化します。

総合研究博物館第7代館長 吉田 茂二郎



市役所1階にデザインミュージアムが出現しました

I 九州大学総合研究博物館 公開展示
「ふくおかをしあわせにするデザイン」

開催期間：2014年12月20日(土)～12月26日(金)

メイン会場：福岡市役所1階多目的スペース／サテライト：We Love 天神コミュニティガーデン

担当：松本 隆史 開示研究系・助教

年末も押し迫る12月20日、福岡市役所の1階に突如ミュージアムが出現しました。中には、周囲360度がスピーカーに囲まれた音響装置や、空気砲による占いシステムなど、体験できる作品がいっぱい。

これは、当館の公開展示として、「ふくおかをしあわせにするデザイン」をテーマに、大学院芸術工学研究院の研究・教育成果を特集したイベントでした。

九州大学大学院芸術工学研究院は、

1968年に設立された九州芸術工科大学をルーツに持つデザインスクールで、「芸工」の愛称で親しまれています。2013年には、九州大学と九州芸術工科大学との統合から10周年を迎えたこと

〈p.2へ続く〉



催事・展示クローズアップ

《p.1から続く》

から、今年度の総合研究博物館公開展示は、芸工の最新の教育・研究成果をご紹介します。

メイン会場となった、市役所1階のスペースでは、インタラクティブ作品の他にも、パブリックデザインの解説、錯視・色彩の研究、ふくおかの問題を解決するロボットのデザイン、活躍する芸工卒業生の紹介など、芸術工学研究院が取り扱うデザインとその成果の多様性をご紹介します。

また、会期中、モーションキャプチャーシステムを使ったインタラク

ティブライブパフォーマンスや、古楽器の演奏会なども行い、一時は立ち見も出るなど、多くの来場者にお越しいただきました。天神ライオン



イメージグラマのパフォーマンス



マジックバルーンを体験

広場前には、サテライト会場を設け、3D映像の上映を行いました。

普段、収蔵品の展示やハンズオンを行うことが多い当館ですが、デザインミュージアムの空間を作ったのは新しい試みでした。

短い会期でしたが、市役所を訪れる多くの市民の皆様や、冬休みに入るとたくさんの子供たちにもご来場いただき、九州大学のデザインの取り組みについて知っていただく良い機会になりました。

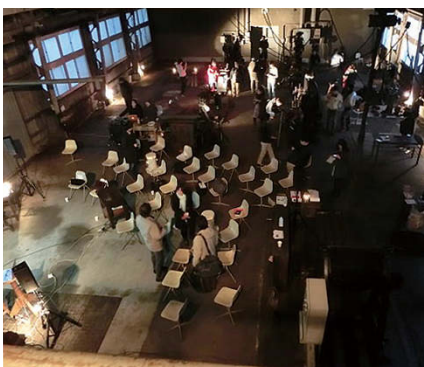
II The Museum of Music

—九大・芸工からひもとく電子音楽の世界—

期間：2014年12月20日(土)

場所：博物館第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)

担当：尾本章 芸術工学研究院・教授



《The SINE WAVE ORCHESTRA》の様子

九州大学および九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部:芸工)にゆかりのある作曲家や技術者の電子音楽作品について、レクチャーコンサートを行いました。日本の初期の作品から最近の作品まで5つの作品を取り上げました。

III Trübe —かげと光のインスタレーション—

期間：2014年11月22日(土)~30日(日)

場所：博物館第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)

担当：小西郁 芸術工学府・博士後期課程

「Trübe」は、第一分館倉庫の光や風を視覚化し、空間を流れる時間と人の関わりをテーマにした作品です。空間全体に吊した布の中を鑑賞者が自由に歩き、時折見える工作機械や刻々と変化する光、人の動作から生まれる風の動きなどを体感することで、わたしたちをとりまく「環境」を共にそしてあらたに感じてみたいと考えました。滞在時間が1時間を超える方も多く、充実した作品展となりました。



会場の風景

IV 学術研究会とバックヤードツアー

「人間・環境学会(MERA)第105回研究会」

期間：2014年11月15日(土)

「全日本博物館学会2014年度第2回博物館教育研究会・エクスカーション」

期間：2014年12月28日(日)

担当：三島美佐子 開示研究系・准教授

MERA研究会「場所の記憶とミュージアム」が、第一部・キャンパス建物見学を含むバックヤードツアー、第二部・研究会として実施されました。移転に伴う閉鎖が来年度予定されている第一分館で開催されたこの研究会では、ミュージアム的なものあり方について深い議論がなされました。また、年末には、博物館教育研究会のエクスカーションとして、当館バックヤードツアーが実施されました。



よいお天気に恵まれた第一部のツアー

Close-up Event & Exhibition

V 2014年 夏の昆虫展示

「裏山の昆虫-小松 貴 写真展」

期間：2014年8月1日(金)～8月29日(金)

場所：常設展示室

「おしゃれ虫・カタゾウムシ」

期間：2014年9月1日(月)～11月30日(日)

場所：常設展示室

「すばらしい世界の蝶と蛾」

期間：2014年8月2日(土)～8月31日(日)

場所：志摩歴史資料館

担当：丸山 宗利 開示研究系・助教

2014年も毎年恒例の昆虫展示を行いました。

常設展示室では、「裏山の昆虫-小松 貴 写真展」を行いました。福岡県に生息する身近でありながら一般にその存在を知られていない昆虫やクモを対象とし

たものです。大きな生物ばかりが注目を集めがちですが、どの生き物も等しく自然界で大切な役割を担っていることをう



「裏山の昆虫」の様子と小松貴さん

ったえる内容でした。小松さんは九州大学熱帯農学研究センターで日本学術振興会特別研究員(PD)として研究していて、同時に写真家としても活躍しています。

その展示に続き、同じく常設展示室で、「おしゃれ虫・カタゾウムシ」を行いました。フィリピンを中心に生息する飛べない甲虫のなかまで、宝石のような美しい



美しいカタゾウムシの一種

模様が特徴です。姿は似たようなものでも、模様が異なり、種が異なるという、生物多様性のまた違った側面をお見せできたかと思います。

夏休みには糸島市の志摩歴史資料館で世界各地のきらびやかなチョウやガをあつかった「すばらしい世界の蝶と蛾」という展示を行いました。これは九州大学で行っている社会連携事業の一環です。当館収蔵の烏山邦夫標本より、約2000



「すばらしい世界の蝶と蛾」の様子

点の標本を展示し、たいへん壮観な展示内容となりました。

2015年度もなにか昆虫の展示を行いたいと思っています。お楽しみに。

VI 科学描画 —科学と芸術のはざま—

公開講演会

期間：2015年2月21日(土)

場所：旧工学部本館1階大講義室

連動ワークショップ

期間：2015年2月22日(日)

場所：21世紀交流プラザ1多目的ホール

連動ミニ展示

期間：2015年2月21日(土)～3月27日(金)

場所：常設展示室

主担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

副担当：福原 美恵子 総合博物館・研究支援推進員

「科学描画—科学と芸術のはざま—」と題した公開講演会では、科学的手法

のひとつとしての「科学描画」に着目し、その本来的な意味や芸術性との関わりについて、3名の演者の皆様よりお話いただきました。三中信宏氏(農業環境技術研究所)からは、見えないものや概念を可視化するという視点、木村政司氏(日本大学)からは、精確に画くということだけではなく構成力の重要性、田中伸幸氏(高知県立牧野植物園)からは、記載画では必要なものを強調し不要な部分を省くことや補填すること、幅広い話題が



講演会の様子

提供されました。総合的な質疑応答では、出版の状況や日本の文化のあり方に

まで至る、深い議論となりました。

翌日には、この公開講演会に連動した

ワークショップ『毛糸で「描こう」!ポンポンでどんぐり』が開催されました。小さな

お子さんをはじめ、楽しそうに毛糸でのどんぐり作成を楽しまれていました。

連動ミニ展示「金平亮三の植物画」は3/27まで開催され、見事な植物描画22点が、その元となった実物標本などとともに展示されました。



ミニ展示・金平亮三のコーナー

Series : Courses Related to the Museum

シリーズ・大学博物館の授業紹介

その4：博物館情報学特論

博物館からの情報発信を考える

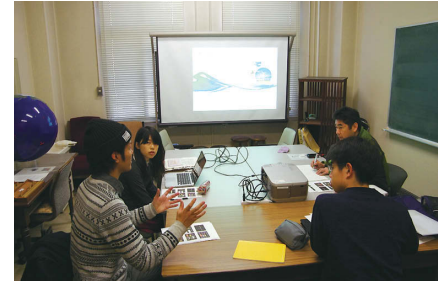
中西 哲也 分析技術開発系・准教授



大橋キャンパスでの講義



箱崎キャンパスでの標本巡り



学生によるプレゼンとディスカッション(箱崎)

博物館情報学特論は、大学院芸術工学府のコンテンツ・クリエイティブデザインコースの学生(修士、博士)を対象に、後期集中講義として開講しています。

博物館は一般に、標本・資料(実物)を収集・保存・展示する場であると思われがちですが、同時に、様々な情報を創出し、発信する場でもあります。現在、九州大学には約750万点の標本・資料がありますが、その大部分は学内に分散して収蔵され、九州大学の学生を含め、一般の人々の目に触れる機会のごく稀です。九州大学総合研究博物館では、展示や標本データベースの構築、デジタル画像のアーカイブ等を行い、学内外への情報発信に努めていますが、まだまだ十分と

は言えません。

博物館情報学特論では、芸術工学府の専門性を活かし、「デザインやコンテンツの素材としての学術標本の価値の再発見」や、「新しい情報発信手法のアイデア出し」を念頭に、3日間の集中講義を行っています。

1日目は大橋キャンパスの講義室で、博物館における情報の分類、展示におけるマルチメディアの利用やネットワークを活用した情報発信等について、従来の基本的な概念を学んでもらいます。

2日目は、箱崎キャンパスに収蔵されている岩石鉱物、昆虫、植物、骨格標本等、様々な標本をじっくり見て回り、その体験を元に「九大博物館における学術

標本の活用と情報発信」について、各人自由にアイデアをまとめてもらいます。

3日目は、それぞれの学生がプレゼンを行い、議論を深めます。毎年、コンセプト的なものから、具体的な実施案まで、芸術工学府の学生ならではの斬新なアイデアが提案され、有意義な議論を楽しんでいます。

この講義は、学芸員資格の取得とは直接関係しませんが、芸術工学府での教育・研究における標本の活用や、将来の総合研究博物館における展示手法や情報ツールの開発につながる事を大いに期待しています。

COLUMN

館内探訪

さようなら第一分館

担当：岩永 省三 総合研究博物館副館長

当館の創設時には全く収蔵施設がなかったため、2005年の工学部の伊都への移転に伴い、旧知能機械工場(約4000㎡)の貸与を受け、改修を加えた後、2006年4月に「第一分館」

として開館しました。ここには全学的な改修工事や移転に伴い保全が必要となった古人骨資料・動物骨格標本・考古学資料・歴史的な工作機械など、当館に移管された資料の大半と鉱物標本を収蔵してきました。それらを様々な催事・行事の際に一般公開するとともに、他博物館とは異なった催事や

展示を実験的・意欲的に実施して、学内外の方々に当館の活動の異色性を印象付けるとともに、好評価をいただきました。しかしながら、箱崎キャンパスの売却に備えた解体整地の対象となったため、収蔵する資料類すべてを箱崎キャンパス内の他建物に移して閉館することになりました。5月には閉館式を実施する予定です。どうかおいで下さい。



第一分館のスターだった工作機械たち



Series : Museum Jobs from A to Z

シリーズ・大学博物館のお仕事紹介

世界一行きたい科学広場 2014 in 宗像

神獣鏡3Dぬりえワークショップ

松本 隆史 開示研究系・助教 舟橋 京子 開示研究系・助教 三島 美佐子 開示研究系・准教授

博物館の収蔵品をよく観察してみると、何気なく眺めているだけでは気がつかない様々な発見があり、創造力が豊かになります。当館は、昨年8月に宗像ユリックスで開催された「世界一行きたい科学広場2014 in 宗像」に参加し、「いろいろ観察隊」ブースを出展しました。この科学イベントには毎年参加していますが、今年度は新たな試みとして、3D技術を活用した考古資料の観察のワークショップを行いました。

今回、観察の対象に選んだのは神獣鏡です。いまから約1800年ほど前に中国で作られたこの鏡は、祭祀の道具や贈り



獣と神様の部分の3Dデータ

くみると、その名のおおりの3組の「神様」と「獣」が描かれており、その周囲に半円と四角が配置されています。

この獣をよく見ると、なかなか愛らしい顔をしています。そして、考古学の岩永教授に

よると、獣は胴体が長く描かれており、神様は獣の背中に乗っているとのこと。文様のデザインを理解すると、愛着が湧いてきて、いろいろと興味が出てきます。

そこで、子供達にもこの文様を観察し理解してもらうために、ぬりえを作成しました。利用するのは、最新の3D技術です。3Dスキャナで神獣鏡を撮影すると、立体的な形状がデータとしてコンピュータ

物として使われていました。正式には「半円方形帯神獣鏡」と名付けられており、文様をよ

に取り込まれます。そして、取り込んだデータを、3Dプリンタで印刷すると、複製が出来上がります。元の文様は、ぬりえをするには細かすぎるので1.5倍のサイズに拡大し、獣と神様の部分だけを、白色のプラスチックで印刷しました。これを10個ほど作り、会場に用意しました。



参加者のみなさんの作品

会場では、参加者の皆さんが、先生の解説を聞きながら神獣鏡を観察し、思い思いの色で塗りました。神様と獣の位置は説明と観察に

よって理解できますが、細かい部分や色などについては、解釈や想像の余地があります。出来上がった作品はどれも個性的で、まさに十人十色の、獣と神様が出来上がりました。



観察しながら塗り絵をします



半円方形帯神獣鏡

COLUMN

これも博物館のお仕事

毛糸で描こう！ポンポンでどんぐり

担当：福原 美恵子 研究支援推進員 担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

平成26年度公開講演会のテーマ「科学描画」に関連したワークショップを2月22日に実施し、小学生とその保護者を中心に19人に参加いただきました。「私が観察したどんぐりは

こんな木の実でした。」とお友達に伝える場面を想像して作ってくださいとの、私たちからの提案を受けて、参加者の皆さんは自身で選んだ本物のどんぐりを見ながら、毛糸のポン

ポンを作り、どんぐりのかたちに整えました。どんぐりの帽子には「巻き巻きの模様があるよ」、「ライオンのたてがみのよう」、実の形には「おかあさんのおっぱいみたい」との感想が飛び出す中、毛糸をくるくる巻いたり、ハサミでサクサク切る作業も楽しみ、時間内に2種類のどんぐりを作ることができました。科学の基本である「観察」とその「記録」を、子供も大人

も楽しみながら体験できた2時間でした。



いろいろな方向から見て形を整えています

シリーズ・九大博物館での研究の紹介

科学研究費補助金による研究:その10

眼の軟組織が保存された最古の魚類化石発見!

研究代表者: 田中 源吾 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター 研究分担者: 前田 晴良 九州大学総合研究博物館



図A) アカントーデスの化石/©G. Tanaka, Kumamoto Univ.

昨年12月24日、英国のNature Communications誌に、熊本大学・九州大学などからなる国際協同研究チームによる最新の研究成果が公表されました。

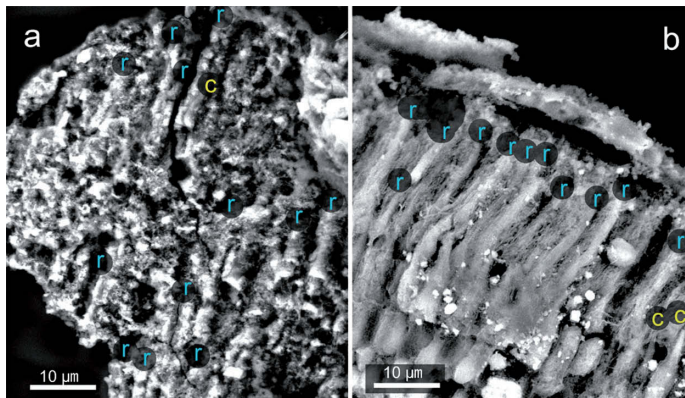
眼は外界の情報を受容する重要な器官で、眼の獲得が動物の進化を引き起こした原因のひとつと考えられています。その化石記録は、カンブリア紀前期(約5億2,000万年前)にさかのぼり、三葉虫の複眼などが知られています。しかし、ほとんど軟組織のみからなる脊椎動物の眼の場合、レンズや網膜に相当する組織、および視神経などは、死後、真っ先に腐って分解してしまうため、眼の進化に関する研究はあまり進んでいませんでした。

今回、アメリカ合衆国カンザス州から産出した石炭紀後期(約3億年前)の棘魚類の一種である「アカントーデス」の化石(写真A)に、通常では化石に残らない眼の軟組織が例外的に保存されていることを発見し、詳細な分析を行いました。

その結果、3億年前の魚類に、1)色を識別する錐体細胞、2)明暗を識別する桿体細胞、3)昼夜ふたつの視覚様式を備えていたことを示すユーメラニンが存在して

高度な情報を含んでいるので非常に重視されています。そのため「化石鮎脈」の研究は、現在の古生物学における世界的な潮流のひとつになっていますが、日本ではこの分野の研究が立ち後れていました。

しかし、九州大学・熊本大学などが連携した結果、「化石鮎脈」に関する日本初の研究拠点が九州を中心に形成されつつあります。今後、さらに連携を深めて「日本待望の化石鮎脈のユニークな研究



図B) 網膜化石の電子顕微鏡写真/©G. Tanaka, Kumamoto Univ.

いたことを初めて突き止めました(写真B)。

眼、筋肉、皮膚などが残された「例外的に保存の良い化石(=化石鮎脈)」は、非常に稀ですが、過去の生物や生態系に関する

拠点」としての重責を果たし、世界に向けて発信してゆきたいと考えています。

なお2月15日(日)に、九州大学総合研究博物館にて、研究代表者自身(田中)が、市民の皆さま

に研究成果を「産地直送」で解説するサイエンストークを開き、とても盛況でした。

(基盤研究C(一般): 層位・古生物学 平成24年~26年度採択)

COLUMN

館内探訪

貴重図書250冊が寄贈されました

担当: 前田 晴良 分析技術開発系・教授

昨年、元・京都大学理学研究科長の鎮西清高・京都大学名誉教授より、地質・古生物学分野の貴重図書:約250冊が九州大学総合研究博物館に寄贈されました。

鎮西氏は、この分野で世界的に著名な研究を行うかたわら、50年以上にわたって内外の専門学術文献を収集されてきました。その中には、絶版となり現在ではもはや入手不

可能なものも数多く含まれています。例えば、Treatise on invertebrate paleontologyの旧版は、新版が出た現在でもよく利用されますが、今となっては古本屋をあたる以外に手に入れる方法はありません。今回寄贈された250冊は、最後まで鎮西氏の座右に残されていたものです。

鎮西氏は、なじみの深い京都大学ではなく本学を寄贈先に選んで

下さいました。それは、貴重な地質・古生物学の標本を多数保管し、寄贈図書を活用できる研究・教育機関としての本学博物館への期待の表れにほかなりません。逆に身の引き締まる思いです。早急に整理を進め、活用させていただくつもりです。



Series : Research at the Kyusyu University Museum

国際学術交流

アンダラス大学(インドネシア)とMoAを締結

丸山 宗利 開示研究系・助教 専門:昆虫学、動物学(標本管理)、分類学、系統学

このたび当館とアンダラス大学(数学・自然科学部)で学術交流協定にかかる同意書(MoA)を締結しました。学術調査において互いに便宜をはかり、将来的には留学生の交換を行おうという趣旨のものであります。

実はその敷地は国立公園につながる野生生物の宝庫で、現在でも大学の構内で、世界的に絶滅寸前のトラ(亜種スマトラトラ)が



トラの出る構内の森

て製品化してきた歴史的背景があり、今までのように海外で容易に生物を採集をして、それを持ち出すということができなくなりつつあります。今回のよう



アンダラス大学理学部生物研究所

インドネシアのスマトラ島の西海岸にパダンという大きな町があり、そこにアンダラス大学はあります。アンダラス大学は1955年に設立され、ジャワ島外では最も古い大学です。15もの学部を有する総合大学で、パダンの町の背景に広がる丘陵地に5キロ平方メートルの広大な敷地を持っています。

出現するくらいです。2012年に私が調査で訪れた際にその環境のすばらしさに感動し、継続的な調査を行いたいと思い、その手始めとして今回の協定に至りました。

さっそく今年の2月に私が指導している大学院生物資源環境科学府の学生2名(金尾太輔・有本晃一)が調査に訪れました。それぞれ、シロアリの巣に共生する

昆虫とハシリハリアリというアリが専門で、今回の訪問はそれらの採集が目的です。

現在、生物多様性条約の目的の一つとして、ABS「遺伝資源の利用から生じた利益の公正で衡平な配分」が議論され、締結への準備が進められています。これには先進国が後進国の生物資源(たとえば医薬品となる植物)を一方的に持ち出し

な協定は、明白な手続きのもと、現地の研究者の同意を得たうえで、共同研究を前提として調査を行う手続きの一つという意味もあります。

国際交流は当館の重要な任務の一つです。これを皮切りにさまざまな機関との締結を進め、さらなる学術調査と現地の知見への貢献を進めたいと考えています。



2015年2月に大学院生が訪れたときの様子

COLUMN

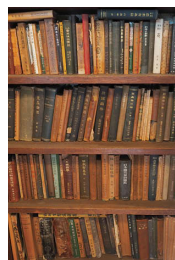
館員活躍録

行徳直巳さんの蔵書受け入れ1

担当: 丸山 宗利 開示研究系・助教

福岡県の昆虫相解明に貢献された故行徳直巳さん(1917~2008)の蔵書をご遺族より寄贈いただきました。昆虫に関する戦前から最近までの貴重な本が数多くあり、当館の重要な資料となりました。貴重な標本もいただきましたが、それについては次回紹介します。

ご自宅の書架にあった
貴重な戦前の蔵書

書籍:「昆虫はすごい」
がベストセラーに

丸山 宗利 助教著

地球上でもっとも高い多様性を誇る昆虫についての普及書を出版しました。おかげさまで昆虫の本としては異例の好調な売れ行きで、昨年8月の発売開始以来、半年で11万部を突破しました。また中央公論新社の新書大賞(7位)に選ばれ、各新聞に取り上げられるなど、話題となっております。

Latest Information on Museum Activities

博物館活動の最新情報

フィールドミュージアム本格始動!

フィールドミュージアム部は、野外における教育・研修支援のために設けた館内組織です。中期計画では社会人及び学生を対象とした野外実習を実施することを掲げています。平成20・21年度に予行として学振の「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業を活用して英彦山の施設を利用した昆虫・植物・陸貝・岩石の野外

観察会を実施しました。このたび農学部附属演習林(林長・大槻恭一教授)のご協力のもと、演習林の施設・資料を活用して本格的活動を始めることになりました。3月23日の第一回交流会では、当館と演習林の密接な交流・連携を進め、様々な事業を立案・実施していくことを確認しました。詳細は次号で。

出展

- 世界一行きたい科学広場 in 宗像2014
「標本いろいろ観察隊」
期間:平成26年8月9日(土)
場所:宗像ユリックス(宗像市久原)

サテライト巡回展示

- 福岡空港サテライト
期間:平成26年8月9日(土)～福岡県の蝶7、8

共催

- 自然史データベース説明会
平成26年10月27日(月)
場所:箱崎キャンパス21世紀交流プラザI
- 学術研究会 人間・環境学会 第105回研究会
「場所の記憶とミュージアム」
平成26年11月15日(土)
場所:総合研究博物館第一分館倉庫
- Trübe -かげと光のインスタレーション-
平成26年11月22日(土)～11月30日(日)
場所:総合研究博物館第一分館倉庫
- The Museum of Music
～九大・芸工からひもとく電子音楽の世界～
平成26年12月20日(土)
場所:総合研究博物館第一分館倉庫

Activities of Exhibitions & Conference

展示・講演会関係の活動状況

公開展示

- 「ふくおかをいあわせにするデザイン」
平成26年12月20日(土)～12月26日(金)
場所:メイン会場
福岡市役所1階多目的スペース
サテライト会場
We Love 天神コミュニティガーデン

特別展示

- 第13回P&P研究成果一般公開
「九州大学教育・研究の最前線」
平成26年10月18日(土)～11月14日(金)
場所:伊都キャンパス榎木講堂ホワイエ
- 榎木講堂オープニング展示「九州大学百年の至宝」
第二期
平成26年5月12日(月)～10月3日(金)
場所:伊都キャンパス榎木講堂1階ギャラリー
※施設調整のため途中中止
- 第三期
平成26年10月16日(木)～11月25日(火)
場所:伊都キャンパス榎木講堂1階ギャラリー

学内連携企画

- 図書館展示
- 標本にみる九州大学の研究 -
第2弾「九州大学の考古資料と学術研究」
平成26年8月1日(金)～12月18日(木)
- 第3弾「九州大学の鉱石標本」
平成26年12月19日(金)～平成27年2月27日(金)
場所:箱崎キャンパス中央図書館2階エントランス
常設展示コーナー

特別企画

- 九州大学総合研究博物館サイエンストーク
「眼の軟組織が保存された最古の魚類化石発見!」
平成27年2月15日(日)
場所:箱崎キャンパス旧工学部本館3階10番講義室
- 公開講演会連動企画
ミニ展示
「科学と芸術のはざまー金平亮三の植物描画ー」
平成27年2月21日(土)～3月27日(金)
場所:総合研究博物館常設展示室
ワークショップ
「毛糸で描こう!ボンボンでどんぐり」
平成27年2月22日(日)
場所:箱崎キャンパス21世紀交流プラザI
- 九州大学社会連携シンポジウム
「双方向コミュニケーションの場づくりのためのワークショップ」
平成27年3月6日(金)
場所:天神ビル11階11号会議室(福岡市中央区天神)

テレビ出演

- BS日テレ
「加藤浩次の本気対談! コージ魂!!」
(丸山宗利助教)
平成26年11月30日(日)
- NHK
「ダーウィンが来た! ツムギアリの空中城に密着!」
(丸山宗利助教)
平成27年2月22日(日)

博物館施設一般公開

- オープンキャンパスに伴う施設公開
平成26年8月2日(土)～8月4日(月)
場所:箱崎キャンパス
・ 総合研究博物館常設展示室
・ 旧工学部本館4階第二会議室
「青山熊治画伯筆壁画」
・ 列品室1
・ 総合研究博物館第一分館

運営委員会

- 平成26年10月28日(書面回議)
- 平成26年12月15日
- 平成27年2月20日

団体見学

- 平成26年9月6日 文学部90年同窓会
- 平成26年11月12日 西日本鉄道株式会社
- 平成26年11月29日
～11月30日 大学史研究会
- 平成26年12月9日 山口県立宇部高校
- 平成26年12月26日 九州産業大学
- 平成27年2月20日 入部小学校